

# THE A MUSEUM

Vol.4-2 第11号 2009. 9. 11

Saitama Prefectural Museum of History and Folklore



埼玉県立歴史と民俗の博物館・深谷市教育委員会 交流企画展

## 出張博物館 in 深谷

博物館が所蔵する深谷市ゆかりの資料を地元で初公開

会場

深谷市立図書館 郷土資料展示室

開催期間

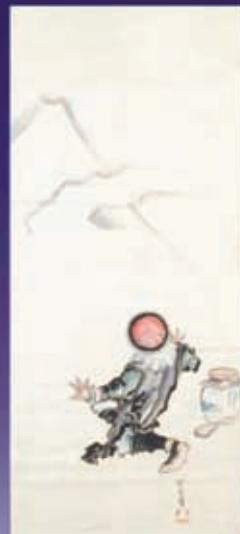
21/10/2<sub>金</sub>、11/8<sub>日</sub> 観覧  
無料

開館時間

9:00~16:30

休館日

10/5・13・19・26・30, 11/2・4



このたび、埼玉県立歴史と民俗の博物館では、日ごろ来館される機会の少ない県北エリアにお住まいの皆様に当館の収蔵資料を紹介するとともに、実施事業や活動を知っていただくために、深谷市教育委員会と共同で交流企画展を開催することといたしました。

この展示は、市内では初公開となる「太平記絵巻」など3点の埼玉県指定文化財をはじめ、市ゆかりの資料を一堂に展示し、深谷市で育まれてきた歴史や文化を理解していただくこととするものです。

併せて、会期中の土・日曜日には、当館体験学習ゾーン「ゆめ・体験ひろば」で実施している絵巻物などのものづくりメニューもお楽しみいただけます。

この機会に博物館の楽しみ方の一端を体感し、次回はぜひ博物館まで足をお運びください。

## 《いにしへの姿》

深谷市内では、旧石器時代以降の多くの遺跡が発掘されています。

遺跡から出土した資料の中には、古代の深谷で生活していた人の姿を伝える資料もあります。



人面付き土器（深谷市上敷免遺跡出土） 弥生時代中期  
埼玉県立さきたま史跡の博物館蔵

## 《江戸時代の深谷》

### 中山道深谷宿

室町時代から深谷城の城下町として栄えた深谷ですが、江戸時代はじめに城は廃され、深谷には中山道の宿場が置かれました。日本橋から数えて9番目の深谷宿は、旅籠屋の数が多い宿場として知られています。

中山道は木曾街道とも呼ばれ、各宿場を題材とした浮世絵が残されており、深谷宿を描いたものもあります。



英泉画「岐阻街道 深谷之駅」 江戸時代後期 当館蔵

### 岡部藩

天正18年(1590)、徳川家康の関東入国に従った旗本安部信勝に岡部領が与えられ、慶安2年(1649)に信勝の子・信盛が1万9250石に加増されて大名となり、岡部藩が成立しました。

安部氏は江戸にも屋敷を持ち、また所領も各地に分散していたため、安部氏の居所は岡部以外の地域にありました。

岡部に陣屋が築かれたのは宝永2年(1705)、

藩主信峯の時で、最後の藩主信発が慶応4年(1868)に三河国半原藩(現、愛知県新城市)に陣屋を移すまで存続しました。



安部氏ゆかりの鎧 江戸時代中期 当館蔵

## 《明治時代の深谷》

明治時代になると、鉄道の開通など深谷にも近代化の波が押し寄せる一方、深谷出身者が近代化を推し進めた事例もありました。

渋沢栄一らが明治20年(1887)に設立した日本煉瓦製造株式会社は、煉瓦製造所を上敷免村(現、深谷市)に建設しました。これは日本初の機械式煉瓦工場で、上敷免製の煉瓦は専用線を通じて日本各地に運ばれ、JR東京駅や日本銀行本店旧館、碓氷峠鉄道施設をはじめとする日本の近代化を象徴する建造物に使われました。

深谷市の旧日本煉瓦製造株式会社跡地には、現在も煉瓦製造窯(ホフマン輪窯6号窯)や旧事務所、旧変電室などが残されており、国指定重要文化財となっています。



「煉瓦製造所設立願」 明治20年(1887)11月7日  
深谷市教育委員会蔵

左記の他に、深谷ゆかりの5人の人物「<sup>はたけやましげ</sup>畠山重忠」「<sup>ただおかべただすみ</sup>岡部忠澄」「<sup>いくざわ</sup>渋沢栄一」「<sup>いくざわ</sup>女医第2号 生沢クノ」「<sup>北川千代</sup>児童文学作家 北川千代」にもスポットをあてるとともに、“「<sup>ひとみしろうおんあ</sup>太平記絵巻」に描かれた武士”として、「<sup>しのづか</sup>人見四郎恩阿」(第二巻)「<sup>篠塚</sup>篠塚

「<sup>いがかみしげひろ</sup>伊賀守重広」(第七巻)が登場する場面もあわせて展示します。

\*会期中に展示替えを行うため、すべての資料を展示していない場合があります。

(特別展担当 加藤かな子)

## 交流企画展「出張博物館in深谷」関連事業

### □ 記念講演会

日時：10月18日(日) 13:30~15:00

場所：深谷市深谷生涯学習センター深谷公民館 大会議室

講師：吉橋孝治氏(元深谷市文化財保護審議委員)

演題：「<sup>武蔵</sup>武蔵武士の世界 人見氏の一所懸命

平家物語・太平記・太平記絵巻」

申込：9月18日(金)9:00から電話(048-645-8171)

受付。先着120名、聴講無料

休館中につき月~金曜日に受付(祝日を除く)。

### □ 学芸員による展示解説 \*当日受付

日時：10月11日(日) / 10月25日(日) 各13:30~  
11月1日(日) 10:30~、13:30~

国指定重要文化財 旧日本煉瓦製造施設・ホフマン輪窯臨時公開  
日本近代化の夜明けをささえた、旧日本煉瓦製造施設を臨時公開いたします。  
日時：10月31日(土)・11月1日(日)10:00~15:00 \*当日受付、入場無料  
場所：旧日本煉瓦製造株式会社(深谷市上敷免28-10)  
問合せ先：深谷市教育委員会(TEL048-572-9581)

### 交流企画展「出張博物館in深谷」会場 地図



## ものづくり工房 in 深谷

交流企画展「出張博物館 in 深谷」開催期間中の毎週土・日曜日(10月31日・11月1日を除く)に「ものづくり工房 in 深谷」と題して体験学習を行います。

当博物館には、体験学習室「ものづくり工房」があります。ここでは、郷土に伝わる伝統文化のわざとところを、ものづくり体験を通じて学ぶことができます。

現在「ものづくり工房」で常時製作体験できる品目を紹介します。藍染めハンカチ、まが玉、ミニアート、浮世絵はがき、古文書、短刀ペーパークラフト、ミニ絵巻などです。

ここでは、「ものづくり in 深谷」で製作体験できる短刀と絵巻物の2品目を紹介します。

短刀ペーパークラフトは「<sup>かげみつ</sup>武蔵武士ゆかりの国宝短刀・景光」です。この短刀は、元亨3(1323)年、いまから約680年前の景光という刀工がつく

りました。「<sup>ちちぶだいぼさつ</sup>秩父大菩薩」と彫られ、埼玉県秩父市の秩父神社に納められたと伝えられているものです。

絵巻は、横長の巻物に文章と絵画で社寺縁起や物語、説話を表現した作品です。ミニ絵巻を製作して、君の好きな歴史物語や日記を描き込んでください。(学習支援担当 山田 実)



ミニ絵巻づくり

## 歴史のしおり 太平記絵巻の詞書 ~きれいだけれど読みにくい文~

太平記絵巻は、豊かな色彩と細やかな描写で、何度見ても興味は尽きません。もともと12巻組であったもののうち、当館は5巻（巻第一、二、六、七、十）を所蔵しています。

1巻の長さは16mを超えますが、機械で製造される現在の紙とは異なり、そんなに長い紙があったわけではなく、横幅92~93cmの和紙を貼り合わせて作られています。

絵巻は詞書（文章）の紙と、絵の紙を交互につないで作るのが一般的ですが、太平記絵巻では絵の中に詞書を書き込んでいます。このような形の絵巻は少なく、珍しいものですが、こうすれば、絵と文章を一緒に楽しむことができます。絵と詞書を別にしたら、もっと巻数も増やさなくてはならなかったでしょう。

絵巻制作の際、絵と詞書はふつう別々に担当します。絵は絵師に、詞書は達筆の公家や僧侶に依頼されます。絵と詞書が別の紙なら、同時進行で作業できるので、効率もいいはず。同じ紙だと、絵が仕上がってからでないと詞書が書けません。書き損じたら、絵も描きなおしという事態にもなりかねません。さぞ緊張したのではないかと思うのですが、美しい字は滞ることなく、流れるように書かれています。細かなところを観察すると、全巻を通じて一人の筆跡であると考えられます。ごくまれに字を書き間違えたり、字配りを失敗したのか、行間が詰まったりしていますが、完

璧でないところにかえって親しみがもてます。屋根や地面などの空間を利用して書かれた文字は絵の中に溶け込んで、文字までもが華麗な絵の一部のようです。

ところが文章として読むとなると、その印象は一転し、たいへん読みにくく悩まされることとなります。長編の『太平記』を極端に短い文章に詰めていること、行書の上になかなかな文字を多用していること、さらに独特の改行をしているためと気づきます。巻第六第4紙（写真）を例にすると、

（前略）本間孫四良重忠只一騎  
和田のみさきの波うちき  
はに馬をうちよせうは  
さしのかふら矢にて鵜  
鳥の波にさかり二尺は  
かりの魚をつかみて沖  
のかたへとひゆくを（後略）

という文章がありますが、もし、

ほんまごしろうしげただだいつき  
本間孫四良重忠只一騎  
わだのみさきなみうさわ  
和田の岬の波打ち際に  
うまをうちよせうわさかぶらや  
馬を打ち寄せ上差しの鏑矢にて  
みさこどりなみさにしやくうお  
鵜鳥の波に下がり、二尺ばかりの魚を  
つかみて沖の方へ飛びゆくを

と書かれていれば、読みやすく、意味も取りやすくなります。その反面、漢字が多ければ、黒い部分が多くなり、見た目にも硬く重くなり、流れるような美しさは半減してしまいます。

ですから、文字の間の余白を大事にするかな文字を好んで用い、文章を読むことよりも、見て楽しむ方をとったと考えられます。南北朝の動乱というテーマを描いた絵巻でありながら、優雅な雰囲気であるのは、絵の美しさだけではなく、詞書の存在も大きいといえるでしょう。

（常設展示担当 西口由子）



ことは高速道路の通行料の割引により、お盆の帰省がかなり混雑したというニュースを聞かされました。民俗行事の「盆」は今や国民的行事としてすっかり定着しましたが、盆の前に行われる「七夕」も盆行事の一面を備えています。8月7日に墓掃除や仏具みがきをする家が見られるのは、その一例です。

七夕といえば全国的には仙台が有名ですが、関東では平塚、埼玉県内では「狭山市入間川七夕まつり」や「小川町七夕まつり」あたりが代表格で、いずれも竹飾りコンクールやパレード、祭り囃子、花火大会といった催しによって夏が彩られます。これらは第二次世界大戦後、地域の商業振興策として始められたもので、商業力を背景に華やかなイベントが展開され、地域おこしに寄与しています。これに対し、家の行事として行われる七夕は、時代の流れとともに簡略化し、衰退の道をたどる一方です。

七夕にまつわる伝承はたくさんありますが、ここでは家の行事として行われた七夕を、「七夕馬」に視点を当てて述べてみたいと思います。

七夕馬はマコモで作るところが多く、雌雄一対を向かい合わせて飾り付けます。馬は、「盆を前にして祖霊を迎えるため」とか「七夕様がこの馬に乗って来る」などという言い伝えがあります。場所によっては牛と馬を作る家も見られました。

県内で七夕馬を作る地域は、東半分の稲作地域が中心で、秩父や児玉地域では見られません。ちなみに、七夕馬を作る地域を丹念にたどると、群馬県境の熊谷市（旧妻沼）から滑川・東松山・坂戸・鶴ヶ島へ南下し、川越・所沢をへて東京都下

へ至るラインを描くことができます（仮に、このラインを「境界線」と呼びます）。七夕馬は、おおむね、この「境界線」の東側で作られています。その反対側は丘陵・山地地域ですが、そこでは七夕飾りの竹にネブタ（植物）を付けるところが多く見られます。とりわけ、8月7日の早朝、ネブタがまだ眠っているうちに小枝をとるのだとか、ネブタで目をこすれば眠気がとれたり、魔除けになるといわれています。このほか、軒先に着物を飾る家もありますが、これは機織りや裁縫がうまくなるという技芸上達の祈りが込められたものと考えられます。

川越市域では、さきに示した「境界線」が南北に縦断していますが、「境界線」の東側はサトガタ（低地稲作地域）、西側がノガタ（台地上の畑作地域）です。七夕馬は、サトガタで作っていましたが、現在は作る家が激減しています。写真は、市内北部の山田で撮影した七夕馬ですが、ここでも近年七夕馬を作る家は、このお宅以外は見られません。サトガタでは「七夕に雨が降ると不作」といわれ、時期になると「どうか雨が降りませんように」と祈りました。ノガタでは七夕終了後、竹飾りを里芋の畑に立て、そのまま一年中おきます。こちらでは、「七夕は作神、雨が降れば芋は大丈夫」といわれ、雨が喜ばれています。

七夕馬について、分布を中心に見てきましたが、馬を作る地域は、マコモが自生する地域とほぼ重なるという植生の問題のほか、民俗行事や生業の面からも見る必要があります。謎は多いです。

（主席学芸主幹 柳 正博）



畑に立てた七夕飾り（川越市今福）



七夕馬（川越市山田）

# エコで快適な博物館を目指して!

～大規模な改修工事(Ⅱ期)を実施します～

現在、当館は建物完成後約38年が経過し、設備の老朽化が著しく目立つようになってきました。そのため、平成19年度から計画的に大規模改修を実施しております。

平成19年度の工事では、館内全てのトイレをリニューアルしました。自動水栓付き洗面器を設置し、洋式トイレは全てウォシュレット付きとなりました。また、エントランスロビーのメイン照明のリニューアルや南門側入口の屋外スロープの改修、自動ドアの設置を行いました。さらに耐震補強工事も併せて実施し、「耐震性がやや劣る建築物」から「耐震性が確保されている建築物」になり、お客様に安心してご利用いただける博物館となりました。

今年度の工事では、主に空調設備のリニューアルごおりちくねつそうを行います。氷蓄熱槽を新たに設置し、割安な深夜電力で夜間に氷をつくり、この氷を利用して昼間に冷房運転を行います。(図1)

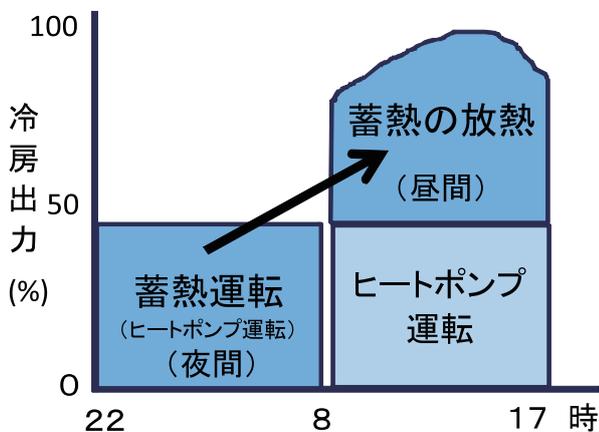


図1 冷房時の運転

氷蓄熱を利用することにより、水蓄熱に比べて水槽の容量を約1/10に低減できます。また、昼間の冷房負荷の大きい時に、夜間の蓄熱を放熱することにより、空調設備(ヒートポンプ)の容量を約40%低減できます。これにより設備費用を大幅に抑えることができます。

冷房時の蓄熱運転についてご説明しますと、夜

22時になると自動的に製氷運転を開始し、翌朝の8時までの間、蓄熱が完了するまで続けます。

(図2)

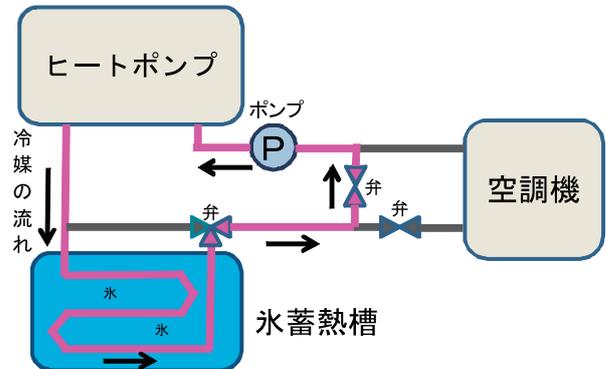


図2 夜間蓄熱運転時

空調開始設定時刻になると、必要な弁が開閉し、氷を溶かしながら冷房運転を行います。氷の放熱だけで冷房負荷に対応できない場合は、ヒートポンプを運転して不足分を補います。(図3)

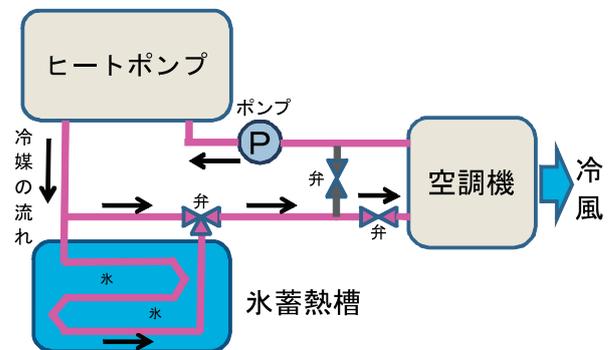


図3 昼間冷房運転時

暖房時には、氷蓄熱槽を温水蓄熱槽として利用し、夜間、深夜電力により温水をつくり、昼間に放熱し、暖房を行います。

今年度は大規模改修工事のため、平成21年9月14日から平成22年2月15日まで長期の休館となり、皆様には大変ご迷惑をおかけしますが、なにとぞご理解の上、ご協力をお願いいたします。

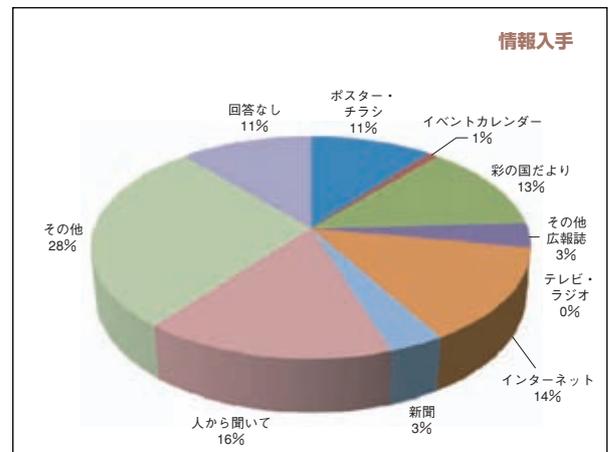
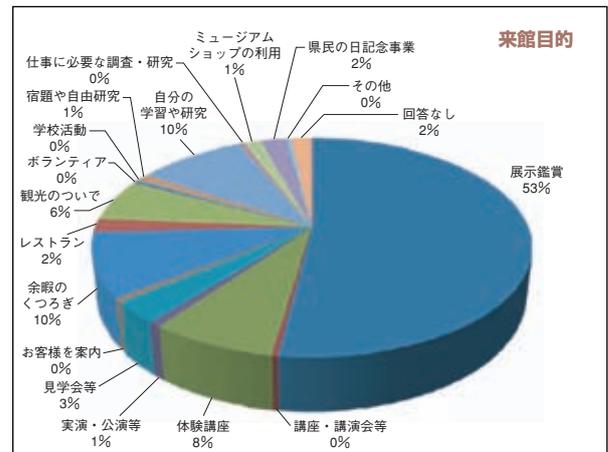
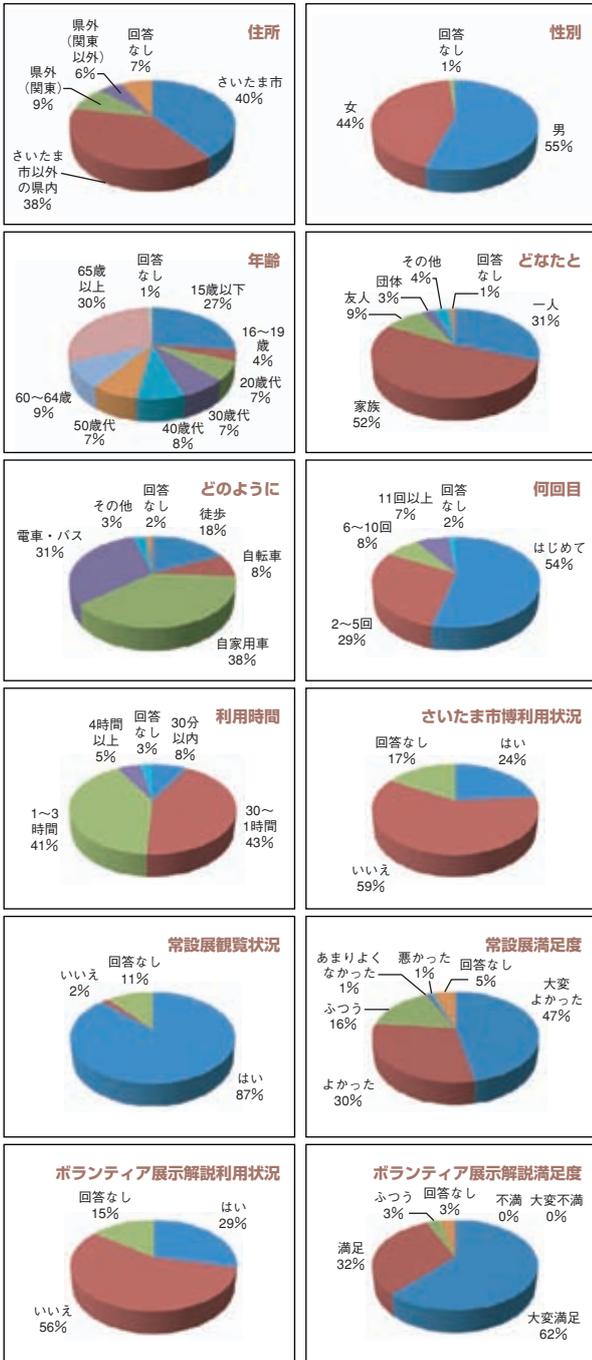
(施設担当 遠藤浩文)

# お客様の声が届く博物館

当館では、博物館にお越しのお客様の満足度やご意見・ご要望を今後の運営に生かすために、アンケート調査を実施しています。

今回は平成21年4月から6月に回収したアンケートの集計結果をグラフにしましたのでお知らせします。

【平成21年4月～6月アンケート回収総数215件】



## ★★★★★アンケートの集計結果より★★★★★

「どなたと」のグラフより、入館者数の半数が家族連れで来館していることは、当館の特徴ではないでしょうか？ ゆめ・体験ひろばの『ものづくり工房』で親子でまが玉を作ったり、『昭和の原っぱ』ではベーゴマやフラフープを楽しむ親子をよく見かけます。そういったご家族連れが楽しめる体験学習やイベントがたくさんあるということをもっとアピールしていくことが今後重要だと思います。

また、団体でのご利用も多くあるはずですが時間の制約かアンケートにご協力頂けてないようです。「情報入手」のグラフからも分かります。インターネットの利用が多くあることから、ホームページ上でのアンケート実施を検討しています。より多くのお客様のご意見をお聞かせ頂き、よりよい博物館になるよう努力していきます。今後ともご協力をお願いします。(企画担当 山田昌紀)

# THE A MUSEUM

今秋 学びの祭典 まなびピア埼玉2009が開催

## スーパーアリーナに県立博物館隊キューレンジャー参上!



来る10月30日(金)から11月3日(火・祝)の5日間、さいたまスーパーアリーナを主会場に、楽しさいっぱいの学びの祭典「まなびピア埼玉2009」が開催されます。

この祭典は、生涯学習を实践する場を全国規模で提供することで、国民一人ひとりの学習意欲の向上と、活動への参加を促進する目的で、文部科学省や開催県が中心に主催するもので、本年の埼玉開催で第21回を数えます。期間中は「21世紀の多彩な“まなび、夢、エネルギー”の創造」をメインテーマに、全县をあげてさまざまなイベントが開催されます。

県立博物館施設では当館を中心に、さきたま史跡の博物館、嵐山史跡の博物館、自然の博物館、川の博物館、近代美術館、文書館、平和資料館、さいたま文学館の9つの館が一体で参加します。

その名も「県立博物館隊キューレンジャー」、スーパーアリーナ内の生涯学習見本市と生涯学習体験広場にそれぞれ専用ブースを設け、各館の魅力をハンズオン展示や学芸員のパフォーマンスで紹介するとともに、博物館ならではの体験教室も開催予定ですので、開催期間中、是非とも「キューレンジャー」ブースにお出かけ下さい。

(企画担当 二階堂 実)



## 工事休館のお知らせ



埼玉県立歴史と民俗の博物館は、平成21年9月14日(月)から平成22年2月15日(月)まで、**空調設備工事のため休館**いたします。長期の休館によりご迷惑をおかけしますが、なにとぞご理解を賜りますようお願い申し上げます。

なお、休館期間中も、まなびピア埼玉2009への出展や、深谷市立図書館を会場にした交流企画展「出張博物館in深谷」(会期:10月2日~11月8日)「ものづくり工房in深谷」(企画展会期中の毎土日曜日、但し10月31日、11月1日を除く)を開催します。

平成22年度2月16日(火)には、**近現代展示室や民俗展示室を全面展示替えして再オープン**いたします。

そして、3月には **特別展「雑兵(ぞうひょう)物語の世界」(期日:3月20日(土)~5月9日(日))**を開催予定ですのでどうぞご期待ください



### 埼玉県立 歴史と民俗の博物館 (編集発行)

〒330-0803 さいたま市大宮区高鼻町4丁目219番地

TEL. 048-641-0890 (管理)

048-645-8171 (学芸)

FAX. 048-640-1964

<http://www.saitama-rekimin.spec.ed.jp/>



埼玉県立歴史と民俗の博物館だより  
Vol.4-2 (通巻) 第11号  
2009年9月11日発行